

## 令和2年度第2回石巻市震災復興推進会議 会議録

- 1 日 時 令和3年3月21日（日）午後1時30分～午後3時40分
- 2 場 所 マルホンまきあーとテラス（石巻市複合文化施設）2階 大研修室
- 3 出席者
  - 【委員】18名（別紙参照）
  - 【オブザーバー】宮城復興局石巻支所
  - 【当局】市長、復興政策部長、教育委員会事務局長、復興政策部理事、復興政策部次長、SDGs 地域戦略推進室長、複合文化施設開設準備室長

### 4 会議概要

#### 議事

##### （1）報告事項

##### ア 復興事業の進捗状況について

（資料1に基づき復興政策課長説明）

##### 【委員】

震災から10年の中で、目に見えない部分の全国・全世界からの御支援がなければ復興にたどり着けなかった。最後に大事にしなければならないのは人と人とのつながりであり、支えあうということが大切であると感じた。

##### イ SDGs モデル事業について

（資料2に基づきSDGs 地域戦略推進室長説明）

##### 【委員】

配布された冊子に、市の目標が9つ掲載されているが、石巻市の特徴が表されたSDGsの推進ということであれば、14番の「海の豊かさを守る」という目標がないというのは、石巻市としてはもったいないのではないかと考えている。現在主として進めようとしている取組も大切なことだが、石巻市としては、9つの目標の中に、水産の街として、14番の目標を入れて進めるのが良いのではないかと考えている。

##### 【SDGs 地域戦略推進室長】

石巻市は水産都市であり、14番の目標も大切なものと考えている。本日配布した資料の最初の頁に、3つの側面で代表的な目標として3つずつ掲載しているが、未来都市計画の全体で見ると、14番も含めた取組を掲載している。「9つの目標」というのは、モデル事業の中で主だったものとして掲載しているものであり、14番に関する取組もこれまで同様進めていかねばならないと考えている。

##### 【会長】

国へのモデル事業を設定したときに9つを出しているから、14番を特に進めるもの

として掲げるとするのは難しいということか。

**【SDGs 地域戦略推進室長】**

現在の形でモデル事業として国に提出していることから、実際の実施の中で14番に関連する取り組みを継続して進めることを考えている。

**【会長】**

外から見ると、9つの目標の中に「14番がなぜ入っていないのか」と思うのは当然のように思う。

**【復興政策部長】**

SDGsとしては、基本的に全部の目標を推進することとしている。そのため、環境、福祉などそれぞれの担当部が、理念に基づき取組を進めるわけであるが、ここで示したのは、復興後の喫緊の課題は何かを考えたときに、「誰一人取り残さない」という意味合いからも大きな問題と考えたのが、コミュニティ、高齢者の移動手段、そして産業の再生等であり、それらに特化した対策を練り上げたものが今回示したモデル事業である。今回説明したのはあくまでモデル事業の内容であり、14番の目標は当然本市にとって重要な目標であるので、石巻市のSDGsの推進としては、市全体として、17の項目全てを目標として進めていくこととしている。

**【委員】**

今回の提案はとても良い仕組みになっていると思うが、これに準じた他の地区の具体例を示してほしい。また、石巻はもともと「協働」が弱点のまちだと考えている。この「ささえあう」というキーワードに対し、具体的にはどのような取組を進めていくのか。

**【SDGs 地域戦略推進室長】**

他の自治体では、それぞれ喫緊で抱える問題が異なっている。例えば、鯖江市は眼鏡の街ということで、眼鏡の生産を軸に事業展開を考えているようである。仙台市は、防災の観点から、今回未来都市に選定されている。石巻市に関しては、孤立防止ということで、皆さんが外に出る気持ちを醸成しようとする観点から、計画を練ったところである。

**【会長】**

他の自治体の取組を踏まえたうえで、石巻市がどれくらい先進的な取組をしようとしているかを説明いただきたい。

**【復興政策部長】**

特にモデル事業に関しては、他の自治体に類似する取組は無い。それぞれの自治体が、自分たちの次のまちづくりを目指すにあたっての課題を位置付け行っている。また、協働で進めることに関しての具体例だが、今回については、地域の人たちお互いが使いあう、そして、自分が運転できる部分は自分がやるというコミュニティの中での位置づけを進めていくことを想定している。次の石巻のまちづくりをしていく上で、最も重要なのはコミュニティの部分と考えており、今回はお互いが支え合って運行する、コミュニティの中でのグリーンスローモビリティという提案をさせていただいた。

**【委員】**

復興住宅の人たちの場合でも、コミュニティがうまくいっていないということを考慮しなければならない。あるいは、既存の住民との間においても同様である。市街地でも買い物がしにくい状況であり、今回の提案のような仕組みがあると利用したくなる。ある限られた地域だけではなく、市民全体の大きな問題としてやらないといけない。自動車整備工場やトヨタとの協力など、取組の大枠は分かるが、もっと細部を詰めていかないといけないと思う。取組のベースとなる石巻市の人間の気質を十分理解した上での展開をお願いしたい。

**【復興政策部長】**

まず、新蛇田地区には震災で様々な地区からの人が集まっており、復興住宅もあることから、コミュニティの活性化に寄与できるように、実証実験として実施する。これにより問題点を洗い出し、その後検証をすすめ、移動の難しい半島部をはじめ、市全体に展開していきたい。

**【委員】**

地域公共交通政策の会議に参画しているが、そちらではグリーンスローモビリティは大きく取り上げられていない。この他の会議で聞くところには、本件は重要な施策となりうるので、地域公共交通政策の場でも大々的に取り上げるべきと思っているので、関連する会議等では漏れも無いよう、議論してもらいたい。

**【復興政策部長】**

公共交通政策に関しては、令和2年度中に本来であれば現在の総合交通戦略の練り直しを行う予定としていたが、法改正等を踏まえ、もう一度基本に立ち返って新しく作ろうと現在作業を進めている。様々な移動手段をトータルに捕らえて新たな交通計画の策定を進めており、グリーンスローモビリティを含めて議論させていただく。

**【委員】**

グリーンスローモビリティに使用する車は、市内各地に配置し自由に使ってもらおうということか。また、一般車の中に、時速20kmのゴルフカートのような車が入り込んでくると、危ないのではないかと思うのだが、走ってよい道路などを区分するとか、そういった安全面も考えられているのか。

**【SDGs 地域戦略推進室長】**

トヨタのHV車が廃車になったときに、車内で使われているバッテリーやモーター等についてはまだ寿命があるため、使える部品を取り出して、グリーンスローモビリティに使用する車体に取り付け、走らせるという取組である。また、車には横のドアやガラスが無い。出せるスピードも時速20km未満と、大きな幹線道路を走ることは難しいが、バス停と自宅の間や、近所の集会場までなど、地域内での足として使っていただき、市民の皆様が独自の運営ができるまで取組を進め、ゆくゆくは市内全体にまで広げたい。

また、新蛇田地区で実証実験を開始したが、出せるスピードも一般車と全く異なるため、

配慮する必要があると考えている。安全面については、まず現状では、幹線道路には出ないように、現在の実験では、新蛇田の団地の中でだけ走っていただくような段階から、情報を収集しようと考えている。

**【委員】**

11番の目標に関してだが、2030年の石巻の人口はどれくらいと想定しているのか。

**【SDGs 地域戦略推進室長】**

現在から約1万人から2万人の減少と考えている。

**【委員】**

人口をどう増やしてくのかに関して、企業誘致が掲げられているが、現状の誘致状況はどうなっているのか。

**【SDGs 地域戦略推進室長】**

詳細は把握していないが、企業訪問等による誘致活動は、これまでも続けている。細かい部分の情報は今持ち合わせていない。

**【復興政策部長】**

企業誘致に関しては産業部が所管している。新型コロナの影響が出るまでは、一部実際に協議が進んでいた企業もあるが、新型コロナの影響で中断してしまったという影響が見られる。なお産業部では、継続的に企業誘致活動を続けているところである。

**【委員】**

人口減少に歯止めをかけるには、企業を誘致し、雇用を拡大するというのが一番の近道であり、それをやらないと人口は減る一方である。幸い三陸道が開通したおかげで、交通の便が非常に良くなったという話を聞く。そういう点を最大限利用していただき、企業誘致を進めていただきたい。

**【委員】**

14、15番の目標に関しては、当然市として取り組むということであるが、5番のジェンダーに関しては官も民も進んでいない。この問題は、行政主導だけでやるものではないと思う。SDGsというのは、全国的にも官が主体的に取り組んでいるケースが多いが、実は、民間が当たり前のこととして主体的に行うことがとても大切で、民間ができることについては、官が応援するというスタンスの中でSDGsを広げていくのが良いと思うので、民の動きをバックアップする施策をお願いしたい。

**【復興政策部長】**

SDGsの17の目標全てが特別なものではなく、我々が日常生活の中で「こういったことは環境問題につながる」であるとか、そのように考えることがベースとなっているため、SDGsパートナー制度として企業と連携して取り組んでいく。また、これをより深化させて、未来都市企業の登録というところまで進めていきたい。学校等にも出向いているが、小学校や高校でも積極的に取り組んできており、これを市民一人ひとり、企業の皆様など

全体に広げていけるように進めていきたい。

**【会長】**

SDGs はとても包括的な概念であり、17 の目標全部を網羅しながら、それに具体的なゴールとなる目標の数値を定めてチェックしていく、というのが大事と考えている。当たり前のことを個別にやるのではなくて、全体を見ながら進めていく。そのときに、どのように SDGs が進んでいるのかを市民の皆さんを含めたモニタリングの仕組みがちゃんとできているのかというのが大事になる。この SDGs の施策は今後どのように進んでいき、市民に開かれていくのか。

**【復興政策部長】**

市全体の施策として、現在第二次総合計画を策定中であるが、その中において、SDGs を位置づけ、KGI や KPI の設定もしており、また、まち・ひと・しごと総合戦略においても、SDGs に関連した目標設定をしている。それ以外にも、SDGs の考えに基づくということで、各部・各課で策定している各種計画についても当然 SDGs の視点を取り入れることで、石巻市における各種計画を策定し、今後 PDCA サイクルに基づき、市民の意見も参考としながら、進行管理していくこととしている。

**【委員】**

「市民主体」といっても、漠然としていると感じる。大事なものは、市役所職員も市民であり、担当部署だけではなく、市職員が主体となって各種問題に積極的に参画していくことで、一般市民を巻き込んでいく必要があると思う。先ほど新蛇田地区の話があったが、今最も困っているのは半島部のほうである。一番困っているところを救済しないといけないと思う。

**【委員】**

確実に高齢化が進み、若い人がいなくなるので、関係人口を増やしていくというのがひとつのポイントである。また、石巻の特長として、産業に関する全ての高校がそろっているからこそ得られるというノウハウと、若い人たちのエネルギーを、横でつないでいくことが必要であると思う。工業・商業・水産という専門高校が市内に3つもあり、市立の桜坂高校がそれを取りまとめていくとか、大学との繋がりなどを作りながら行うのが望まれる。そして SDGs に関しては、各学校の先生方にも協力いただきながら、全ての小中学生が、SDGs について理解を深めるような、小中学生版のテキストもできるのではないかと思う。現在はカリキュラムにも一部の内容しか入っておらず、総合的な学習の時間にやることになっている。今後は石巻独自のカリキュラムとして実施してはどうか。

**【教育委員会事務局長】**

SDGs は全世代が共通して認識しなければならないテーマであると思う。小中学生のうちからも、自然と認識できるような状況を目指す必要があると思うが、今のところ、総合的な学習の時間でまずやるような流れとなっているので、普段から SDGs に自然と触れられるような授業が出来たらよいと考えているので、今後も教育委員会としても取り組

んでいきたい。

## (2) 施設見学

資料3に基づき、石巻市複合文化施設内を複合文化施設開設準備室長等による案内により見学。

## 6 閉会

本会議閉会にあたり、復興政策部長より挨拶（市長挨拶代読による）。